

「名古屋と観光」と名古屋学

名古屋市立大学大学院人間文化研究科

(やまだ・あきら)

山田 明

1. 「名古屋と観光」プロジェクト

二〇〇六年四月、名古屋の観光の現状と課題について、とくに歴史・文化・環境・まちづくりの分野から共同で調査研究するためのプロジェクトを立ち上げた。幸運にも本学の特別研究奨励費の交付が受けられ、人間文化研究所の共同研究プロジェクトにも採択された。このプロジェクトは大学院人間文化研究科・人文社会学部の特徴を活かし、人文社会科学の諸分野から名古屋の観光と交流を学際的に調査研究するものである。

○六年度開設の学部総合科目「名古屋の歴史・文化・まちづくりと観光」にも共同研究の成果を反映させてきた。この講義にはJR東海相談役の須田寛さんを講師に招いており、熱のこもった二回の講義は学生や聴講生から大好評である。

「名古屋と観光」プロジェクトを推

進するなかで、観光や名古屋学に興味を深めていった。○六年一二月一六日に西村幸夫・東大教授（都市工学）を招いて「歴史・文化・自然を活用したまちづくりと観光」をテーマにした講演会を契機に、観光まちづくりへの関心を高めた。西村教授によれば、観光まちづくりとは地域が主体となつて、自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによつて、交流を振興し、活力あるまちを実現する活動としている。観光とまちづくりを相互に連携させて推進していくもので、都市の魅力づくりや活性化策としても示唆に富む。

○七年一二月一二日には、公開シンポジウム「名古屋の観光まちづくり」を開催することができた。これは日本政策投資銀行との連携事業として企画され、会場の中区役所ホールに三〇〇人近い参加があった。基調講演した日本政策投資銀行の藻谷浩介さんや須田寛さんなどによるパネル

ディスカッションにより、名古屋の観光まちづくりについて、いくつかの具体的な課題が提起された。○八年一月一五日には、研究所も後援して国際シンポジウム「観光まちづくりの国際比較 ペーチ（ハンガリー）」と名古屋から考える」が開催され、名古屋市民経済局文化観光部長とともに名古屋の観光施策、観光まちづくりについて報告した。

2. なぜ「名古屋と観光」なのか

多様な交流の促進と集客力の向上による観光の振興は、グローバル化と分権化が交錯する現代社会にあり重要な政策課題となっている。○七年一月に観光立国推進基本法が施行され、活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて、国内外からの観光旅行を促進することが課題とされた。六月にはマスタープランとなる観光立国推進基本計画が策定され、○八年一〇月には観光庁が発足した。

地方自治体は国に先駆けて観光施策を計画・実施してきた。東京都は二〇〇一年に観光産業振興プランを策定した。「活力と風格ある世界都市・東京をめざして」という副題がついた○七年三月のプランの中で、「今後、世界的な成長産業として、観光の重